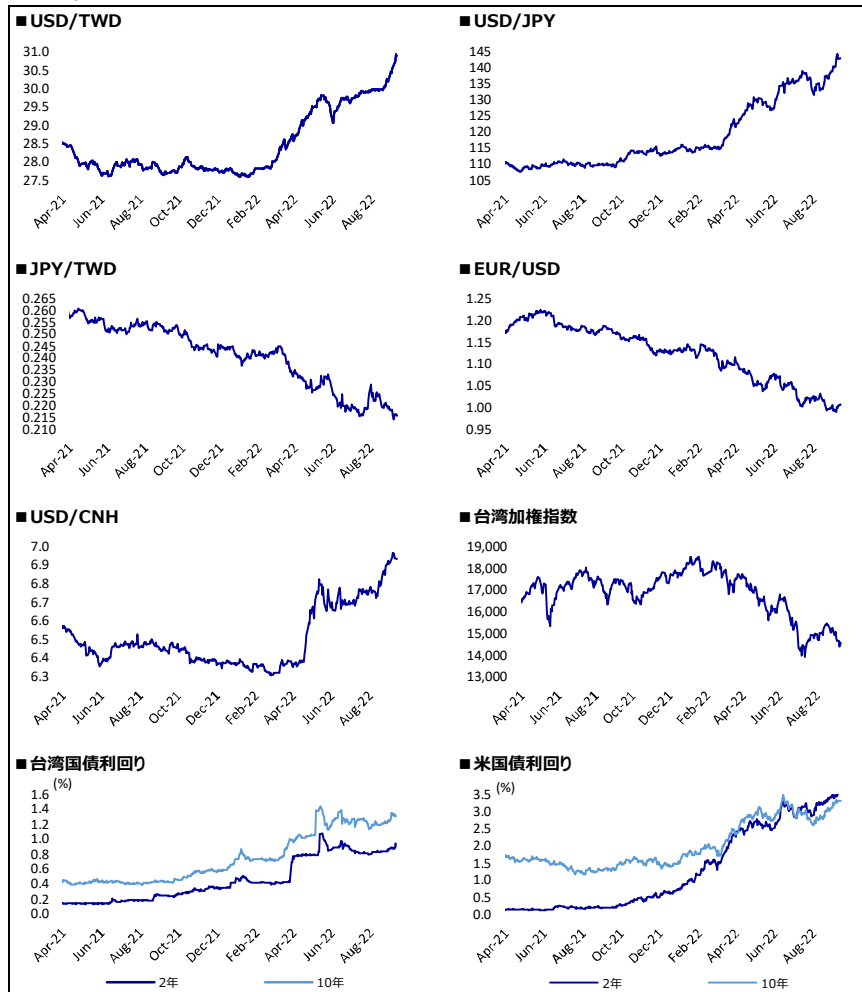


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、約2年11か月ぶりの水準に。週初9/5は30.620でオープン後、前週末の米雇用統計の結果から米労働市場の環境は悪くないとの見方からFRBの利上げが意識され、ドルが買われると30.7台に乗せた。9/6は台湾株が一旦反発すると30.6台に戻す場面も見られたが、台湾株が下落に転じると台湾ドル売りが優勢となり、30.8台に上昇。9/7も台湾株が下落する中、資金流出が加速し、台湾ドルが売られると30.9台に乗せ、一時30.942まで上昇。9/8は中秋節の休日を前に調整も入り、30.90ちようどを挟んでもみ合う展開となった。最終的に先週比1.0%ドル高台湾ドル安の30.895で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は233.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は約24年ぶりに144円台に。週初9/5は140.10でオープン後、前週末の米雇用統計の結果から堅調に推移したものの、米国休場の中、上値は重く、140円台半ばまでの上昇に留まった。9/6は米長期金利の上昇や米8月ISM非製造業景況指数が市場予想を上回ったことからドルが買われ、143円台まで上昇。9/7もドル買いの流れは継続し、一時144.99まで上昇し145円に迫ったが、米金利の上昇も一服し、ドル売り優勢となり、144円ちようど付近で推移。9/8は財務省・日銀・金融庁の3社会合を行うとの報道を受けて円を買い戻す動きから、143円台半ばまで下落。しかし、パウエルFRB議長がインフレ抑制に向け強く行動することを示唆する発言を改めて行くと、米金利が上昇しドル買いが強まり、ドル円も144円台まで値を戻した。9/9は黒田日銀総裁からの「一日に2円も3円も動くのは急激な変化だと思う」との発言を受けて、為替介入への警戒感から141円台半ばまで下落したが、売り一巡後は142円台に戻し、週末を控え小動きの展開となり、最終的に先週比1.8%ドル高円安の142.65で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.750-31.050
今週は米8月CPIの発表を控えており、引き続き高い水準であれば米国の利上げが意識され、台湾ドル安が加速し、31台も視野に入ってくる。引き続き、上値を追う展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：140.00-145.00
先週は24年ぶりに144円台に乗せたものの、日本当局からの円安けん制で142円台まで戻している。今週は米8月CPIの発表を控えており、予想を上回った場合には再び145円を試す展開となるであろう。ただし、口先介入も増えており、ボラティルな環境は続くであろう。

今週の予定

9/12 (MON)	
9/13 (TUE)	米8月CPI
9/14 (WED)	米8月PPI
9/15 (THU)	BOE、米9月NY連銀製造業景況指数、米8月小売売上高、米8月鉱工業生産
9/16 (FRI)	米9月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。